

# お客様の信頼を得るために

## 基本的な考え方

お客様満足の上とお客様からの信頼を得るために、質の高い対応と施工・製品を提供しています。また、お客様のニーズには提案力と技術力で応えし、お客様との関係を深めていくことに努めています。

## 全てのお客様から信頼を得るために

私たちNIPPOが提供している施工は全てオーダーメイドであり、一つとして同じ施工現場はありません。ゆえに、お客様からのご要望は多種多様となるため、ニーズを的確に把握することが求められます。お客様の立場・目線で悩みを共有することによって、期待以上の良いご提案ができるよう努めています。また、ご用意いただいた案件では「確かなものづくり」を理念とした施工に加え、施工後も確実なフォローを実践するため「お客様満足度アンケート」の取り組みを行っています。お客様の率直なご意見に対して耳を傾ける機会を積極的につくり、真摯に受け止め改善しています。その積み重ねによってさらに信頼され、選ばれ続ける会社を目指しています。

## 自然災害への対応

近年は、大地震・豪雨・大雪等の災害が頻発しており、2022年も福島県沖地震の影響によって東北新幹線が約一カ月運休となったことは記憶に新しいところです。当社はインフラを支える会社として、国や地方自治体と全国で「災害協定」を締結しています。自然災害が発生した際、いち早く駆けつけて復旧工事に取り組むことは、当社の社会的使命の一つです。また、被災した民間企業の皆様、個人の方々へは、構内道路や建築物の補修・復旧工事を通じ、一日も早い事業活動再開の支援に全力を尽くすようにしています。災害時は地域での協力が不可欠です。これからも当社は、インフラ整備を通じて地域に必要とされる会社を目指していきます。



### 私のCSR

関東第一支店 松浦 範佳

私は国道の維持工事の施工管理を担当しています。維持工事は、道路利用者の安全確保のため24時間年中無休の緊急性の高い工事となります。交通量の多い国道での作業は、「自分の身を守る」「仲間からけが人を出さない」だけでなく、「第三者への安全管理」も非常に重要です。「安全作業5つの誓い」の完全実施に日々熱意をもって取り組み、無事故無災害の工事完成を目標に安全管理を行います。

## お客様のニーズを捉えた商品の提供

社会が求めているニーズは、環境や時代の流れで刻々と変化します。営業部門ではその流れを常に把握するように努め、技術開発部門へフィードバックしています。

昨今は、2050年カーボンニュートラル宣言を背景とした脱炭素社会実現への流れが加速しており、当社では環境配慮型商品の開発に力を入れています。CO<sub>2</sub>排出を抑制した中温化アスファルト混合物や、ヒートアイランド現象の緩和を目指した遮熱性舗装等の従来商品に加え、2022年は新たに「リペットペーパー」を商品化しました。

同商品は、高耐久の環境配慮型アスファルト舗装であり、添加剤の主原料に廃ペットボトルを再利用することにより環境負荷を低減します。



リペットペーパーの概要

また、さらなる社会環境の変化を見据えて「太陽光発電舗装」の開発も継続して取り組んでいます。

今後も私たちNIPPOは、お客様満足の上上に全力で取り組んでいきたいと考えています。

## お客様からのお問い合わせ受付

当社は、ホームページにお問い合わせ窓口を設置しています。改修工事に関するご相談から、当社工法へのご照会まで、様々なお問い合わせをいただいております。早期回答に努めています。

URL <https://www.nippo-c.co.jp/contact/index.html>

# 品質保証体制

## 基本的な考え方

お客様のニーズに応えた良質な製品を提供し、顧客満足度を向上させるとともに、経済活動を支える基盤としての社会インフラに貢献するため、継続的な改善に取り組んでいます。

### 2022年度 品質方針

確かなものづくりを通して、豊かな社会の実現に貢献する。

1. 「信頼を築く」  
望まれる確かな製品を提供し、顧客・利用者の信頼を築く。
2. 「技を磨き、伝える」  
「技術の開発・蓄積」と「技能の研鑽・伝承」を確実に遂行する。
3. 「夢をいただき、挑戦する」  
より高い目標を掲げ、誇りと情熱と向上心を持ち、広い視野と柔軟な発想で常に自己改革をし、品質改善に努める。

## 品質保証体制

### 品質マネジメントシステム

当社は「確かなものづくり」で人と社会へ貢献するため、ISO9001:2015に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を運用して品質の維持向上を図っています。

当社を取巻く外部、内部状況(社会・規制・自然・活動・製品・能力等)を勘案しつつ、お客様のニーズや期待を把握した上で、設計・施工から引き渡しに至る工程についてP(計画)・D(実行)・C(評価)・A(改善)のサイクルを継続的に行って品質改善に取り組み、顧客満足度の向上を目指しています。

### 顧客満足向上を目的とした、品質管理活動の継続的改善



### ● 経営者によるマネジメントレビュー

当社社長は、品質マネジメントシステムを行う上で、半期に一度確認し、システムが適切、妥当かつ有効であることを確実にするために必要に応じて改善指示を行っています。

### ● ISO内部監査の実施

本社、支店および現業事業所において、品質の確保と向上のため、全ての業務が法令を遵守して実施されており、かつ社内のルールが効果的に運用され維持されているかどうかをチェックするISO内部監査を毎年実施しています。指摘された改善点や是正事項は関係部署と協議の上、修正・改善を継続的に行っています。



内部監査の状況

### ● 外部審査の実施

当社の品質マネジメントシステムが適切に運用されているかどうか第三者の視点で問題点を洗い出し、組織内外への説明責任を果たすため、毎年外部の認証機関による審査を受けています。

### ● NIPPOグループ改善事例発表会の開催

全国の支店で、支店内における業務改善活動の活性化を図り、この取り組みを定着・継続させて水平展開させることを目的に、支店内の全ての部署が参画する「改善事例発表会」を開催しています。また、各支店で選考された事例を本社で発表し全国に展開しています。2021年度はコロナウイルス感染症予防対策のため、WEBによるテレビ会議方式で実施しました。



### 私のCSR

北海道支店 小田 雄貴

私が所属する北海道試験所は、新千歳空港近くの自然豊かな恵庭市に事務所を構えており、室内および現場での試験による現場支援を主たる業務としております。技術部門として現場を支援し、「確かなものづくり」を通じて品質向上に努め、現場にもお客様にも喜んでもらえるよう、これからも業務に邁進してまいります。

# 安全管理

## 基本的な考え方

当社は「絶対に死亡災害を起こさない」と決意し、「安全作業5つの誓い」に従事者全員で熱意を持って、取り組んでいます。また、不安全行動、不安全施設を絶対見逃さない職場づくりに取り組んでいます。

### 2022年度 全社安全衛生管理方針

#### 〔安全衛生方針〕

人命尊重を基本理念とし、働く人全員の協力の下に労働安全衛生マネジメントシステムを実行し、熱意を持って安全衛生管理水準の向上を目指す。

1. 安全作業5つの誓い項目を遵守し、死亡災害を防止する。
2. 労働基準法、労働安全衛生法を遵守する。
3. 快適な職場環境づくりを推進し、災害事故の防止と健康の保持増進を図る。

#### 〔安全衛生目標〕

1. 死亡災害「ゼロ」を達成する。
2. 災害事故件数を削減する。  
(延べ労働時間あたり件数2021年度以下)
3. 職場に起因する健康障害の重篤化を防止する。

## 安全衛生管理水準の向上

### ● 安全作業5つの誓い

当社では、過去に発生した重大な災害の原因究明と再発防止対策から、死亡災害「ゼロ」を達成するために、作業現場で最優先に遵守する項目と

安全作業5つの誓い	
重機作業	人との分離を実施したか ヨシ!
車両後退	誘導合図を確認したか ヨシ!
土砂崩壊	土止めはしたか ヨシ!
墜落・転落	安全帯を使っているか ヨシ!
非定常時作業	装置は止めたか ヨシ!

して「安全作業5つの誓い」を定めています。作業時に重機と作業者の接触事故を防止するために、重機の作業範囲内に作業者が立ち入る可能性がある場合は、監視員の配置を義務付けています。また、車両の後退時には必ず誘導員を配置し、誘導合図なしではバックしない等をルール化しています。現場パトロールでは「安全作業5つの誓い」遵守状況を点検指導することで、重大な災害の防止に取り組んでいます。

### ● ヒヤリハット活動の実施

現場従事者からヒヤリとしたりハッとしたりした体験の情報を収集して、危険箇所の発見と予防措置を行うことで、危険の芽を事前に摘み取り、危険の感受性向上を図るとともに、分析データは現場にフィードバックしています。

### ● 安全衛生に関する教育

施工協力業者に安全大会で当社の安全衛生方針および目標を伝達し、「安全作業5つの誓い」の取り組みについて指導しています。事業者責任教育や作業手順書および作業計画書については、作成に関する指導・支援を行い安全衛生管理水準の向上に努め、現場担当者には、経歴に合わせた安全管理教育を毎年実施しています。

### ● 安全・衛生標語の募集

従業員、グループ会社、協力業者から毎年安全・衛生標語を募集しており、2021年度は安全標語2,386作品、衛生標語2,105作品の応募がありました。全社中央安全衛生委員会で最優秀作品を選定し垂れ幕やポスターを作成。掲示や唱和をして、安全衛生意識の高揚を図っています。

### ● 労働安全衛生マネジメントシステム(コスモス)

当社の労働安全衛生マネジメントシステムは、建設業災害防止協会からコスモス認定基準に適合していると評価され、2013年3月に初めて認定されて以来、2022年3月に3回目の更新認定を受けて現在に至っています。店社と現場が一体となって、「P:計画-D:実施-C:評価-A:改善」で継続的に行う自主的な安全衛生管理活動を実施しています。

### ■ 過去5年間の労働災害件数 (休業4日以上) (件)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
労働災害	13	8	12	6	4
死亡事故	0	1	0	0	0

▶ 度数率・強度率は、P.36 ESGデータをご覧ください。

# 従業員とのかかわり

## 基本的な考え方

従業員は企業活動の基盤であり、従業員の働きがいや成長なくして企業の成長はない、という認識に基づき、全従業員の能力を発揮できる職場づくりや人材育成に取り組んでいます。

## 働きがいのある職場づくりの考え

当社では、従業員一人ひとりにとって、「働きやすい」「働きがいのある」職場づくりを目指しています。そのために社会的信頼の維持・向上を図り、「労働環境の整備」「健康の保持増進」「多様な人材の活用」等の基本的事項を推進することをCSRの柱の一つとして、取り組んでいます。また、CSR活動の確実な実践により、企業価値を高めるとともに、能力開発・資質向上のための従業員教育・研修を充実させ、社会に誇れる従業員の育成に取り組んでいます。

## NIPPOの働き方改革

### ● 働き方改革としての取り組み

2017年7月1日に、「働き方改革」プロジェクトの推進本部および作業部会を発足し、「働き方改革=労働環境の整備、生産性の向上」と位置づけ、長時間労働の抑制、過重労働解消に向けて2024年度までの「総労働時間短縮ロードマップ」を策定し、取り組んでいます。建設業における上限規制適用まで残すところ2年となり、さらに実効性のある施策を推進していくため、2022年度の「働き方改革プロジェクト行動計画」では外勤事業所においては、4週8.0休の実現に向け、①休日・休暇予定の「見える化」推進、②代休・振休の取得促進、③有給休暇(1日または半日単位)の取得促進といった「計画的な休日の確保」、内勤事業所においては、①行動予定の管理徹底、②WEB会議の積極的な活用等による「社内イントラ等の有効活用」を重点施策に掲げ、取り組んでいます。労働環境の充実が建設業界の魅力度向上へつながっていくものと考えています。

### ■ 総労働時間短縮計画

出張所、工事事務所	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
36協定(年間)	520	460	400	360
36協定(月間)	70	60	60	45
特別36*1(年間)	780	720	720	720
特別36(月間)	99	80	80	80

  

上記以外の事業所	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
36協定(年間)	360	360	360	360
36協定(月間)	45	45	45	45
特別36*2(年間)	720	720	720	720
特別36(月間)	80	80	80	80

※1 建設業の場合、36協定の特別条項の時間を上限とする。  
 ※2 建設業以外の事業所の場合、時間外の上限規制の時間を上限とする。

## 2022年度 働き方改革プロジェクト行動計画

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 労働時間協定の遵守(各事業所36協定参照)</li> <li>2. 実休務日数 年間110日</li> <li>3. 有給休暇取得日数 年間6日/人以上</li> <li>4. 現業事業所の4週8.0休の実現</li> <li>5. 月間時間外労働45時間以内 年4回以上の達成</li> </ol>
現業事業所行動計画	<p>&lt;休日の確保および所定外労働時間の削減&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 休日・休暇予定の「見える化」 ・各事業所での好事例を「働き方改革ニュース」にて全社へ水平展開する。</li> <li>② 代休・振休の取得促進 ・代休または振休を積極的に活用し、4週8.0休を確保する。</li> <li>③ 有給休暇の取得促進 ・有給休暇は第2四半期(閑散期)までに取得完了とする。第2四半期時点での未取得者は時季指定を行い、第3四半期までに取得を完了させる。</li> <li>④ タブレット・モバイルPCの活用 ・現場・外出先での時間の有効活用およびデータベース管理を定着させ、効率的に業務改善を図る。</li> <li>⑤ PC強制シャットダウンシステム(IDLM)の活用 ・PC強制シャットダウンシステムを活用し、休日および時間外労働管理を徹底し、休日出勤および1日の所定外労働時間の削減を図る。</li> <li>⑥ 書類作成の一元化 ・国官工事(元請)の書類整理の外注化を図る。</li> <li>⑦ 業務改善アプリの活用 ・建設業の業務改善アプリを積極的に使用し、書類処理力の向上を図る。 (例)CCUS、eYACHO、Teams、Microsoft 365、CAD、施工管理ソフト</li> <li>⑧ 月間時間外労働45時間以内への取り組み ・月間45時間以内で管理する月を年4回以上として、上限規制適用を見据えた日々の管理を行う。</li> </ol>
内勤事業所行動計画	<p>&lt;社内イントラ等の有効活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全従業員が各個人の行動予定をスケジューラーに入力する。</li> <li>・WEB会議を積極的に利用し、業務改善を推進する。</li> <li>・AI等のデジタル技術を積極的に活用し、効率化を推進する。</li> </ul>
全社共通行動計画	<p>&lt;事業所独自の取り組み施策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間労働対策を各事業所従事者全員で話し合い、事業所独自の取り組み施策を決定する。</li> </ul>



### 私のCSR

北信越支店 梅木 崇雄

私が勤務する北信越支店では、脱炭素化社会の実現に向けた取り組みの一環として、不必要なオフィス内照明の消灯や空調機器の温度設定見直しなど、職場における省エネ活動を励行しています。また、オンライン会議の積極的な活用を通じて、移動に伴い生じるCO<sub>2</sub>排出量の削減にも取り組んでいます。



### 私のCSR

北海道支店 小川 純平

私はいきいきと働くために、心身ともに健康な状態を維持するよう心掛けています。平日はなるべく定時で退社し、サイクリングに行きます。休日も、サウナ等の汗を流すリフレッシュ方法を取り入れています。プライベートな時間を確保するためにも、仕事では優先順位を付け、段取りよく取り組むよう気を付けています。



## 従業員とのかかわり

### 労働環境の整備

#### ● 総労働時間の短縮・休日の確保

2022年度も総労働時間短縮を実現すべく「働き方改革」プロジェクトの行動計画に沿って、管理者および従業員が継続して取り組みを進めます。また、全従業員が「有給休暇 年6日以上/人」を確実に取得できるよう時季指定および計画年休制度を活用し取得促進を図るとともに、第2四半期までに5日以上、第3四半期までに6日以上の取得計画を定め、継続して総労働時間短縮ならびに休日の確保に取り組んでいきます。

#### ■ 月平均時間外労働時間の推移

2019年度	2020年度	2021年度
30.2時間	29.0時間	28.9時間

#### ■ 有給休暇平均取得日数の推移

2019年度	2020年度	2021年度
10.50日	10.40日	12.00日

#### ● 福利厚生等

当社の団体保険はENEOSグループ保険制度を導入しています。保険の選択肢が充実していること、また、スケールメリットにより保険料負担を減らすことができ、従業員が長く安心して働けるための環境づくりに努めています。その他にも、業務終了後や、休日にいきいきとしたプライベートを過ごし、リフレッシュして業務にあたるよう、福利厚生の一環として、飲食施設、宿泊施設、エンターテインメント施設等の費用補助を行う「福利厚生制度(ファミリーCLUB)」を導入しています。また、社内イントラでの掲示や冊子の配布等を通じて利用促進を図っています。

### 健康(心とからだ)の保持増進

#### ● 健康診断

従業員の健康管理は、労働安全衛生法に則した定期健康

診断を基本とし、保健師の指導や本人が検査項目を選択できるオプション健診を取り入れ、きめ細かな健診が受けられるよう配慮しています。

また、疾病の早期発見治療、疾病予防の観点から、子宮頸がん・乳がん検診、インフルエンザ予防接種等の費用補助も行っています。さらに健康障害防止対策として、健診結果に基づき、健康障害高リスク者に対して、職制・保健師がフォローし、安全配慮義務に努めるとともに、従業員の自己保健義務意識の向上を図っています。

#### ● ストレスチェック

ストレスチェック実施計画を作成し、2016年度から年に1回、全従業員を対象としたストレスチェックを実施しています。メンタルヘルス不調の未然防止の段階である一次予防を強化するため、検査結果を集計・分析し、職場におけるストレス要因を評価し、職場環境の改善につなげることでストレスの要因そのものを低減するよう努めています。また、厚生労働省指針に従い「心の健康対策(メンタルヘルスケア)」の推進に基づき、年度ごとに当社の「心の健康づくり計画」を策定し、職場環境の改善につなげています。

#### ■ ストレスチェックの実施状況

	対象者数	実施率	ストレス指数
2021年度	2,585人	98.3%	89

※対象者は従業員(臨時含む)および派遣社員を含む。  
※ストレス指数とは、委託先(保険会社)にて全国平均を100とし、総合的な健康リスク値を評価したものの。

#### ● 健康増進イベントの実施

年に1回、健康づくり事業の一環として、NIPPO健康保険組合と合同で従業員参加型のウォーキングイベントを実施しています。従事する事業所ごとに歩数を競うことで、健康増進への意識を向上させると同時に、上位事業所へは、寄贈用の車いす、空気清浄機ならびに絵本(幼児向け)・書籍(小学生向け)を贈呈し、地域の社会貢献活動へつなげています。

### ダイバーシティ推進

#### ● 女性社員活躍推進

当社では、2016年度より女性活躍に関する取り組みとして、女性社員の積極的な採用活動を進めています。まだまだ数は少ないながら年々女性社員の採用数は増えており、ライフステージにとらわれず働き続けられる両立支援施策の充実化、職域拡大に向けた育成制度の整備など、さらなる取り組みを推進していきます。

#### ■ 両立支援制度の運用状況

	2019年度	2020年度	2021年度
育児休業制度利用者	7	5	5
育児短時間勤務制度利用者	6	7	11

- 育児休業制度 ▶ 最長満2歳まで取得可能(法定通り)
- 育児短時間勤務 ▶ 小学校就学の始期まで(6時間勤務)
- 子の看護休暇 ▶ 小学校就学前の子につき5日/年(子が2人以上の場合は10日) ▶ 半日単位でも取得可能

#### ● 障がい者雇用の機会拡大

2017年度より、障がい者雇用の機会拡大を視野に特別支援学校の生徒の現場実習を受け入れています。生徒に社会のルールや職場のマナーなどを学んでもらい、働くイメージを持ってもらう機会を提供しています。保護者の方にも来社見学していただき、職場理解を深めていただいています。

また、実習期間には社内の事務作業を集約する「オフィスサポート」として活躍してもらったこともあり、2019年4月には実習で受け入れた生徒を新たに雇い入れ、現在は当社の業務改善の一翼を担っています。

当社の2022年6月1日現在の障がい者雇用率は2.49%(法定雇用率2.3%)になっており、今後も雇用の定着やさらなる雇用機会拡大に向け努めていきます。

#### ● 再雇用者の処遇改善

定年延長を視野に、健康で、働く意欲のある定年退職者に「生涯現役」として活躍してもらうため、2017年度より再雇用制度を大幅に見直し、再雇用者の処遇改善を行いました。

### 人材育成

#### ● 従業員教育・研修

従業員の能力向上、CSRや法令遵守(コンプライアンス)に関する意識の徹底を図るため、従業員教育ならびに各種研修を実施しています。

これらの教育・研修を通じて、CSRの重要性を認識し、日常業務でCSRの確実な実践により企業価値を高めることを目指します。

### 海外語学留学制度

当社は、海外工事の従事や米軍工事などの国内における英語での顧客対応を見据え、2017年度より本格的に海外語学留学の派遣を推進しています。英語の習得に励むことはもちろんのこと、海外での生活を通じ異文化・多様性に慣れ親しみ、今後の海外事業の展開で活躍できる人材の育成に取り組んでいます。



アラバマ大学(アメリカ アラバマ州)に留学



#### 私のCSR

建築部 丸光 ゆう

私は、いきいきと働くために日頃から自分の体調管理に気をつけています。学生時代は、なぎなた部で毎日身体を動かしていたのですが、現在従事している現場では通勤時の歩行距離も短いため、毎日通勤前に自宅の周辺を散歩するようしています。朝散歩をすると体調も整い、気持ちよく仕事に臨むことができます。



#### 私のCSR

関東第二支店 手戸 陽南子

総務担当者として千葉合材工場に勤務しています。千葉合材工場では、製造に関わる電力をCO<sub>2</sub>フリー電力へ切り替えることで、CO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。今後は、事業所周辺の清掃や事務所内の適正な室温管理を継続して行い、身近な環境保全活動にもより一層努めてまいります。



# 社会とのコミュニケーション

## 基本的な考え方

全ての事業の基盤はお客様が住む地域社会にあります。当社では、地域社会とのコミュニケーションの機会を大切に、災害復旧支援から教育・スポーツ振興まで様々な形で地域社会に貢献していきます。

## 災害復旧支援活動

当社では、災害時のインフラ復旧などの重要な役割を社会から期待されていることを深く認識し、長年培ってきた土木技術と全国の事業所網を活かして、地震をはじめとする自然災害が発生した場合には、復旧支援体制を組み、いち早く現場に駆けつけます。

人命救助・消火などの緊急車両の通行や人員・援助物資の輸送など、災害時の「道路復旧による通行の確保」は、極めて重要です。当社は地元自治体と連携して、全力で道路の復旧にあたり、1日も早い復興を支援します。

事業継続計画（BCP）は国土交通省関東地方整備局の他、同省近畿地方整備局からも認定を得ており、今後も訓練等を通じてさらに見直し、充実を図っていきます。

## 社会貢献活動

### ● 未来を担う子どもたちへの支援

当社は2022年度も引き続き、従来行っている子どもたちへの支援を継続しています。特に職業教育を通じて、当社が事業として行う社会資本整備、特に道路建設の整備内容、その重要性、使用される先進技術について紹介してきました。

小中学校で使用される職業教育教材「おしごと年鑑」、WEBページ「おしごとはくぶつかん」の作成には2016年度より協賛しています。日本全国の全ての小中学校に寄贈され、授業等で活用されています。

また、建設業の次代を担う人材の育成を願い、子どもたち

を対象とした職業体験型の出前授業、工場見学会も積極的に行い、当社事業の理解を深めていただくよう努めています。

北海道恵庭市にある北海道支店試験所では、2021年10月に恵庭市立若草小学校の3年生30人を招き、社会見学を開催しました。本取り組みは小学校側から社会見学の希望があり協力したものです。社会見学では、「道路ってどうやってつくるの?」をテーマに、道路がある理由や舗装の役割を説明しました。また実際に道路の材料を作る過程の見学や、舗装の材料に触れるなど、様々な体験をしてもらいました。子どもたちからは「いろいろな話を聞いて道路の大切さが分かった」「道路を作るってかっこいい」などの声が寄せられました。



社会見学の様子

当社はこういった子どもたちの社会体験活動を積極的に応援することが、子どもたちの成長の糧となること、社会の成り立ちと関わりが深い道路建設に携わる当社への理解を深めていただくことにつながっていくことを願っています。

当社のホームページでは「キッズサイト道づくり探検隊!」を設け、クイズなどを通して当社の主力事業である道路建設について楽しく身近に学ぶことができます。

URL <https://www.nippo-c.co.jp/kids/index.html>

また、「チームNIPPO」の応援会場等で同サイトに登場する当社のゆるキャラ「ミッチーくん」に会うことができます。



## 社会・地域とのコミュニケーション

当社は子どもたちへの支援とは別に従来通りの社会貢献活動を継続的に実施しています。アスファルト合材の販売数量に応じて、売り上げの一部を認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付する独自の取り組みを行っているほか、スポーツ、学術研究をはじめ国際交流等の寄付を通じて、社会の期待に応えています。

全国の事業所、グループ会社では、地域の町内会、子ども会等が実施する交通安全、防犯活動、防火活動、祭礼、その他の催しに積極的に参加しています。また、多くの事業所では献血等の社会貢献プログラムに自主的に参加を行っています。

それに加え、2016年度から、全社一斉の社会貢献活動を実施しています。2021年度も国土交通省が定める「道路ふれあい月間(8月1日~8月31日)」、および当社の創立記念月である2月の年2回、全社一斉道路清掃作業に取り組みました。この活動は今後も引き続き取り組んでいきます。



一斉清掃活動

献血



認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを 日本委員会」 ©UNICEF Myanmar2021AKSeng

### ● スポーツ振興への取り組み

当社は、「ツアー・オブ・ジャパン」「ツール・ド・北海道」「ジャパンカップ」等の自転車ロードレース競技への協賛と「日本舗道レーシングチーム」を前身とする「チームNIPPO」への支援を行い、30年以上にわたって自転車競技の振興をお手伝いしています。

2021年のシーズンはUCIワールドチームEFプロサイクリングとパートナーシップを締結し、「EFエデュケーション・

NIPPO」というチーム名で三大グランツールを含む世界の頂点を舞台に活動しました。また、EFプロサイクリングの育成チームとしてUCIコンチネンタルチームを立ち上げ若手選手が世界へと挑戦する環境を提供しています。

### パリ〜ニース(フランス)

- ・第3ステージ ステージ優勝(シュテファン・ビッセガー)
- ・第8ステージ ステージ優勝(マグナス・コルト)

### ジロ・デ・イタリア(イタリア)

- ・第18ステージ ステージ優勝(アルベルト・ベティオール)

### ツール・ド・スイス(スイス)

- ・第4ステージ ステージ優勝(シュテファン・ビッセガー)
- ・第7ステージ ステージ優勝(リゴベルト・ウラン)
- ・個人総合2位(リゴベルト・ウラン)

### ルート・ド・オクシタニー(フランス)

- ・第4ステージ ステージ優勝(マグナス・コルト)

### ツール・ド・フランス(フランス)

- ・個人総合10位(リゴベルト・ウラン)

### プエルタ・ア・ブルゴス(スペイン)

- ・最終ステージ ステージ優勝(ヒュー・カーシー)

### ツアー・オブ・ポーランド(ポーランド)

- ・最終ステージ ステージ優勝(ジュリアス・ファンデンベルフ)

### プエルタ・ア・エスパーニャ(スペイン)

- ・第6ステージ ステージ優勝(マグナス・コルト)
- ・第12ステージ ステージ優勝(マグナス・コルト)
- ・第19ステージ ステージ優勝(マグナス・コルト)



UCIワールドツアー「プエルタ・ア・エスパーニャ大会」(スペイン) 28歳(当時)のマグナス・コルトが区間3勝の大活躍

この他、各種スポーツ大会への協賛、社内運動部として剣道部、テニス部の活動を支援しています。